

委員会視察報告書

委員会名	議会広報広聴常任委員会
視察地	新潟県上越市
調査項目	議会ポスト、各層との意見交換会、議会報告会、SNSの活用について
調査目的	上越市議会の先進的な取組について運用方法とその効果および課題を調査し、本市議会の広報・広聴活動の改善につなげるため。
日時	令和6年1月24日(水) 午前9時15分～10時40分
場所	上越市役所木田第一庁舎5階 第三委員会室
調査概要	<p>1. 議会報告会</p> <p>議会報告会と意見交換会を同時開催していたが、参加者の減少・固定化や、参加者が意見を言う時間が少ない事への不満などがあったことから見直し、令和5年度からリニューアルして開催している。</p> <p>①ご意見を聴く会：議員が地域に出向き、市民の意見を聞くことを主とし、時間は70分と拡大。テーマは決めない。</p> <p>②議員と気軽にトーク：若い人が集う商業施設や子どもセンターへ出向き、フリートークのグループディスカッション形式（意見交換というより相談に近い）で行った。</p> <p>③議会報告会@YouTube：議会報告を収録・配信。当初30分だったが、5分位でやめる視聴者が多く、5分に短縮した。</p> <p><意見の取り扱いについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報広聴委員会において意見を分類整理し、対応方針を決定している。調査研究や政策提言が必要となる場合は協議を行い、必要に応じて行政に伝え、回答をもらっている。 ・議員の個別の発言については、基本的には自由とするが、議会として行うことから、市民の意見は持ち返って今後の議会活動に生かすとの認識を共有している。 <p>2. 各層との意見交換会</p> <p>議会報告会とは別に市民との意見交換会を開催していたが、こちらも参加者の高齢化・固定化が顕著という課題があり、そ</p>

れを解決するために平成 28（2016）年度から特定の団体などとテーマを設定した「各層との意見交換会」に変更した。

相手団体（福祉団体、飲食業、農業法人等）やテーマは常任委員会で決定する。意見・要望は各常任委員会で検討・分析し、必要に応じた対応を行い、取り組みや審議・一般質問に活用している。

「若年層」という意味では、地元の大学生と意見交換会を開催したり、小学生（高学年）、中学生に議会を見てもらっている。

3. 議会ポスト

広く市民等から議会への質問、意見などを聴き、議会の運営や機能に反映させることを目的に、平成 20 年に当時の議長の意見で運用を開始した。

取り扱いの範囲は、誹謗中傷などを対象外としている。市議会に対する意見は事務局が回答案を作成し、議長決裁を経て議長名で回答、ホームページで公開し、全議員に周知している。市政に対する意見も多く、行政と連携して回答しているが、取り次ぎの場合が多く、今後の課題である。

請願・陳情との違いは、議長が回答することでスピーディな対応ができる、議会運営に対する市民の意見が聴けるという点がある。

市民の声が起点となって改善された事例として、前述の議会報告会のリニューアルがある。

4. その他の取り組み（SNSの活用）

Facebook について委員会は関与せず、議会事務局主体で運営しているが、発信のみで双方向のやりとりはしていない。

議会だよりについては、ウェブブックとマチイロを活用し、ホームページにも掲載している。

視察の様子



(説明会場)



(議場)

質疑応答

質問 「議員と気軽にトーク」での議員個人の発言についてルールを取り決めているか。

回答

「議員として自らの発言には責任を持つ」との前提のもと、発言は自由としているが、あくまで市民の意見を聞くことがメインであるとの認識は共有している。

質問 「議員と気軽にトーク」の会場選定とテーマ選定について

回答

買い物客から気軽に立ち寄ってもらうことを想定して商業施設を会場に選んだが、それは難しかった。ただし、初めて20代の方が参加してくれた。事前の周知を見て参加した20代・30代の方からは、「会場が無印良品で面白そうだから」との声があった。会場を変えることで若い世代が

	<p>ら興味を持ってもらったことは大きな前進であり、また、テーマを全てフリー（自由）にしたことも好評だった。</p> <p>一方、こどもセンターでの開催では、声かけにより若い父親も参加してくれたり、7人の女性議員が子育ての悩みについて話を聞けたりと、子育て世代の貴重な意見を聞くことができた。</p> <p>このように、議会に関心を持っていない世代に対して、こちらから出向き、言葉を交わすことで議会への興味につなげることができた。</p> <p>質問 意見交換において、専門外の話題や慣れない若手の議員へのフォロー体制は？</p> <p>回答 担当の広報広聴委員やベテラン議員がフォローしている。</p> <p>バランス良くチームを編成しているが、答えられないことは持ち帰って回答したり、タブレットで検索して回答したりと、柔軟に対応している。</p> <p>質問 参加者の減少や固定化に対して、周知方法での工夫は？</p> <p>回答 議会広報誌、ホームページ、SNS、議員からの声かけなど、31人の議員が幅広い層に対して積極的に声かけしている。</p> <p>質問 YouTube 動画の作り方の工夫は？</p> <p>回答 最初は30分の動画を作ったが、視聴実態から5分と短くした。</p>
<p>委員会所感</p>	<p>【星野幸彦委員長】</p> <p>上越市議会においてもこれまで『議会報告会』『意見交換会』について取り組んでこられたが、『参加者が少ない』『参加者の固定化』等の課題（柏崎も共通の課題に直面している）を解消するため、令和4年から取り組みのリニューアルを行ってきた。</p> <p>ご意見を聞く会・議員と気軽にトーク・SNS（YouTube、フェイスブック）の活用と、誰でも気軽にと若年層にも浸透をはかる取り組みへと変更している。柏崎市においても、特に以前から話があったSNSや動画の活用などは大いに参考として調査検討が必要な時代となってきたのではないかと感じる。</p>

【三宮直人副委員長】

議会報告会と意見交換会については若い世代から高年齢層までバランスを保つ工夫がされている。若い世代が集まる設え（MUJI）で気軽に参加してもらおうとしている。年齢の高い世代には（おそらく会場は各地域のコミセンや公会堂）では「ご意見を聴く会」に徹底している。議会ポストについては、期待していた議会の運営についての意見が少なく議長と事務局が主に対応しているとのことだった。改めて「広聴」は難しいと感じた。

【山崎智仁委員】

お隣である上越市の取り組みを知ることができ、非常に参考になった。特に令和5年度からの議会報告会のリニューアルの取り組みにより「広報」に関しては議会の動きの内容を5分程度にまとめたYouTubeの活用や「広聴」に特化した「議員と気軽にトーク」の展開がなされていることが印象に残った。「議員と気軽にトーク」の事業では通りすがりの方の参加は少なかったそうだが、商業施設内での開催や、短時間で相談窓口のように対応していく形など、運営形態の工夫をすることで、今までなかなか話を聞きづらかった子育て世代の声を聴く機会への工夫が参考になった。

【三嶋崇史委員】

上越市が取り組んできた議会報告会と意見交換会の同時開催だが、年々参加者の減少・固定化により、十分な時間が確保できずにいた。そこで「報告」より「意見交換」を重視することで、時間を大幅に拡大し、市民の声を聞きやすい環境づくりがうまく機能していると感じた。また、大型商業施設やこどもセンターでの開催により幅広い世代の意見交換ができる点、意見の取り扱いなどは、柏崎市でも取り入れたい内容である。

SNS（YouTube）の活用においても、視聴者が短時間しか見ないことから5分に短縮するなど迅速な対応は、常に向上心を持っているからこそである。

【近藤由香里委員】

上越市議会では、意見交換会を令和4年8月からリニューアルし、各地域をまわる形式の「ご意見を聴く会」と、若い世代

をターゲットとする「議員と気軽にトーク」を実施している。

それぞれ特定のテーマを設けず、参加者は自由に発言でき、議員は個々に自分の意見を述べてよいとしている点が、柏崎市議会と大きく異なる。参加者に前提条件として予算執行権のない議会のスタンスを示すことや、記録者を置いて議員の個人的見解の逸脱を抑制することにより、一定の節度を持って運営しているようである。2回目の「議員と気軽にトーク」では、子育て相談会のような雰囲気もあったという。

「何を目的として行うのか」という点も踏まえ、柏崎市議会意見交換会においても参考にしたい。

なお、上越市議会のSNSや議会ポストは、議会事務局が管理していた。柏崎市議会で検討するのであれば、責任の所在や負担と効果について、十分考慮する必要があると感じた。

【西川弘美委員】

市民との意見交換会の参加者が高齢化・固定化することや、内容が陳情になりがちであるところなど、課題はどれも共通である。上越市はそれらの課題を踏まえ、形式を3つにして、それに合わせた場所・時間・参加者の選び方などを工夫されている。特に若い世代を取り込むために商業施設や子ども関連施設へ出向き、「議会を知ってもらおうきっかけ作り」というスタンスで臨まれたことが思わぬ効果を生んでおり、こういった小さな工夫は当市でも取り組んでいけると思い、参考になる点が多かった。

【五位野和夫委員】

上越市では議会の取り組みをお知らせする「議会報告会」と、市民のみなさんから意見をお聞きする「意見交換会」を同時に開催していましたが、今度から取り組みをリニューアル。

リニューアル後は①ご意見を聴く会、②議員と気軽にトーク、③議会報告会@YouTubeの3つに改めました。

また、議会のフェイスブックも開設し、市民への発信にも取り組んでいるとのことでした。

広大な市域の柏崎市においても、市民に「出向く取り組み」を増やすとともにSNSなどでの発信の研究は必要かと考える。

【相澤宗一委員】

平成 17 (2005) 年に 14 市町村が文字どおりの「平成の大合併」をした上越市では、その年から住民との意見交換会を始めた歴史を持っている。平成 22 (2010) 年には議会基本条例を制定し、精力的に行ってきたものの、時代の変化や人口減少の進行によりマンネリ化。若い人に伝わることを課題と捉え、従前の形も踏まえながら新しいことに取り組まれていた。

「ご意見を聴く会」「議員と気軽にトーク」により、市民のニーズを捉える工夫を行うとともに、議会の活動を知ってもらうことの重要性から「議会報告会@YouTube」を活用して意見交換の時間を確保していた。この発想は参考にしたい。

【阿部基委員】

上越市においても、議会報告会を開催しているが参加者の高齢化や固定化が顕著に表れたため、子育て世代の声を聴き、意見の把握に努める目的で、会場を市民交流施設のこどもセンターで気軽にトークができるよう工夫をされていた。

ターゲットを絞るとともに、集まりやすい場所の設定や意見を述べやすい環境の提供が必要であり、見習う点があった。

また、SNSを活用し、議会報告活動を実施していたが、当市においては運用方法などで課題があるのではないかと感じた。

今後も市民が議会に対して関心を高めていただけるよう、研究を進める必要がある。